

郷土・資料調査室報

2013・平成25年3月 第3号

開催中 企画展 復興

2013年6月16日まで

台東区には、戦争や地震、水害や火災などのたびに復興を遂げてきた歴史があります。被害地域では、復興施策だけでなく、さまざまな新しい技術や文化などをとり入れた、街ぐるみの再生、再出発が図られました。

その一方で、歴史の波をくぐり抜け、長いあいだ姿を変えていないものも、数多く存在しています。

本展では、台東区が経てきた戦争や災害からの復興に焦点をあて、街の歩みをご紹介します。



浅草公園花屋敷及十二階之真景 (大正12年)



上野公園の大木数十本倒る (大正6年)



言問橋 橋桁架設工事 (昭和2年頃)

平成24年度に郷土・資料調査室で行なった展示や行事をご紹介します。

企画展

「浅草を見つめつづけた写真家」

高相嘉男 写真展

あの日の隅田川

2012年3月16日・6月17日

浅草花川戸に住んでいた写真家・高相嘉男氏。寄贈された写真コレクションは、昭和30年頃から平成にかけての日常を切り取った、貴重な資料となっています。その中から、隅田川をテーマに展示を行いました。

昭和33年に行われた舟渡御の様子、今はもうない橋場の渡しなど、懐かしの風景をパネルで展示。高相氏が愛用していた一眼レフカメラ、当館所蔵の江戸から明治の資料に見る隅田川の様子などもご覧いただきました。



「なんにも注目！」

浅草文庫コーナーの本棚壁面には、浅草の劇場や映画館を彩った名優たちのプロマイドや、今は無き浅草国際劇場のパンフレット写真、「江戸名所図会」から浅草寺の参道をつなぎ合わせた復刻版絵巻（いずれも浅草文庫寄贈資料）をパネルにして展示しています。浅草を愛する方々の熱い想いに触れ、浅草を一層好きになっていただけるようなスペースにしていきたいと思っっています。



企画展 博覧会 最先端大集合！

2012年6月22日・9月19日

明治から昭和にかけて、日本各地では数多くの博覧会が開催されました。上野公園周辺は、明治10（1877）年の第一回内国勧業博覧会をはじめとして、以後昭和初期まで、東京で開催される博覧会の主な会場となりました。

特設館がたちならび、世界中から集められた、めずらしいもの、美しいもの、楽しいものが披露され、たくさんの方が訪れました。博覧会は、大人も子供もシヨアやアトラクションを楽しめる場でもあったのです。



会期中の2012年3月18日には、54年ぶりに三社祭舟渡御が復活し、高相氏が写した、かつての隅田川のにぎわいを肌で感じられる機会となりました。

博覧会ごとに意匠をこらして設置された入場門や特設館はもう見ることはできませんが、現在の公園の区画には博覧会会場の面影が残されています。

本展では、会場案内図や記念絵はがき、博覧会の様子を描いた錦絵などを展示。最先端の発信地であった、上野の博覧会の歴史をひもときました。



企画展関連講座 「博覧会が近代産業にもたらしたもの」

2012年8月5日

講師：鎮目良文氏

(たばこと塩の博物館学芸員)

時代の最先端技術や文化を広く発信した博覧会は、明治以降の日本の産業発展にも大きな影響を与えました。そうした博覧会と近代産業のかわりについて、文献や写真資料でわかりやすく解説していただきました。

台東区立中央図書館 郷土・資料調査室

〒111-8621 東京都台東区西浅草 3-25-16

TEL / 03-5246-5911

ホームページ

PC版 <http://www.taitocity.net/tai-lib>

携帯版 <http://www.taitocity.net>

/taito-opac/mobile/index.jsp

開館時間

月～土曜日

午前9時～午後8時

日曜・祝日

午前9時～午後5時

■つくばエクスプレス「浅草」駅

A2 出口から徒歩 5分

■地下鉄日比谷線「入谷」駅

徒歩 8分

■北めぐりん・南めぐりん

「生涯学習センター北」

徒歩 2分

■都バス「入谷二丁目」停留所

徒歩 1分





企画展
一枚の景色 絵はがきで見る台東区

2012年9月21日・12月19日

私製はがきの発行が許された明治33（1900）年から昭和にかけて、絵はがきブームが巻き起こり、さまざまな絵はがきが発行されました。

図柄には名所風景や女性・動植物・建造物のほか、博覧会などのイベント・災害・事件などの写真も用いられ、絵はがきはメディアとしての役割も果たしていました。今日では、発行当時の社会・風俗を知ることのできる、大変貴重な資料となっています。

本展では、絵はがきにうつし出された台東区の姿を中心に、通信面や写真の縁取りのデザインなどもご紹介しました。

台東区ゆかりの講演会 伝統芸能シリーズ
「翫間さんという仕事」

2012年9月22日

出演・講師：悠玄亭 玉八氏（翫間芸者）

翫間さんとは、お座敷や宴会などの酒席で、主や客人を飽きさせないよう、芸を見せたり、芸者や舞妓を助けて盛り上げる職業です。しかし現在、その伝統芸を受け継ぐ方はわずか数名となっています。

台東区は花柳界が発展したことから、翫間さんとはなじみ深い土地柄であり、浅草寺伝法院には、翫間塚もあります。浅草見番にも登録されている翫間芸者の方を講師にお招きし、翫間さんの仕事について芸のご披露を交えながらお話しいただきました。

お座敷の雰囲気味わっていただくこうと、和室で開催。声帯模写・音曲・三味線・お座敷芸・ふすま芸・屏風芸など、バラエティ豊かな翫間芸の世界を、お楽しみいただきました。



伝統芸能シリーズは、毎回たくさんの方にご応募いただき、ご好評のうちに三回目を終えました。今後も台東区にゆかりのある伝統芸能を知り、より深く楽しんでいただけるような講演会を企画していきたいと思えます。

浅草文庫コーナー開設

2012年11月17日

浅草文庫は昭和52（1977）年11月、浅草観光連盟によって設立されました。浅草に関する郷土資料を、共有の財産として後世に伝えていくことを目的に、幅広い分野から浅草に関する史料・文献・図面・写真などが集められました。

設立以来三十余年にわたり、閲覧・展示が行われてきましたが、平成23年、その図書資料が浅草観光連盟より台東区に寄贈されました。

文庫設立の趣意を受け継ぎ、浅草文庫に託された、浅草を愛するたくさんの方々の想いを感じていただける閲覧コーナーとして、また、台東区の郷土資料の一層の充実を図るため、浅草文庫コーナーを郷土・資料調査室に開設しました。

浅草文庫コーナー開設記念講演
「浅草のにぎわい〜江戸から明治へ」

2012年11月26日

講師：荒井修氏（浅草観光連盟副会長）

江戸時代より名所として知られ、人々の活気に溢れた浅草の町。明治時代以降も、新たな文化の幕開けとともに、最新の流行を発信し続けました。

伝統を活かしつつ、新しいものを柔軟に受け入れてきた浅草の町の歴史を、浅草寺子屋の人気講師としても知られる荒井氏に、画像資料などをご紹介いただきながら、楽しく解説していただきました。

郷土史講座

「時の鐘、鐘は上野か浅草か」

2013年2月24日・3月2日・3月3日

講師：浦井祥子氏

（徳川林政史研究所非常勤研究員）

江戸時代の時報装置であった時の鐘。現在の台東区にあたる地域には、上野と浅草の二箇所、時の鐘が設置されていました。中でも、上野寛永寺の時の鐘は、現在もその音を聞くことができる現役の時の鐘です。

日本各地の時の鐘やその歴史、世界の都市との比較を交えて、時の鐘や時刻制度に関連する様々な話を、3回に渡りお話ししていただきました。

台東区ゆかりの講座と町歩き

「アンティーク絵はがきの魅力を知る」

「浅草から消えた五つのタワーを探せ！」

2012年12月1日

講師：三遊亭 あほまる氏

（江戸ネット代表・絵はがきコレクター）
アンティーク絵はがきのコレクターとして、そして毎朝の浅草早朝散歩をつづる人気ブロガーとしても知られる講師をお招きして、開催中の企画展「一枚の景色」絵はがきで見える台東区」にちなんだ講座と町歩きを行いました。

まずは講座で、明治から昭和初期の古い絵はがきの魅力と豆知識、鑑賞のツボをレクチャーしていただきました。続いて、浅草探索企画「浅草知って紅団・浅草から消えた五つのタワーの謎」を究明すべく、参加者の方々と一緒に、浅草の町を歩いて謎解きに挑戦していただきました。



企画展
新収蔵資料展

2012年12月21日・2013年3月20日

郷土・資料調査室では、錦絵や絵はがき、ゆかりの文学者の直筆原稿など、書籍以外にもさまざまな種類の資料を収集・所蔵しています。しかし、貴重資料の多くは普段、保存のため閲覧に制限を設けています。

そこで、台東区にゆかりのある資料をたくさんの方に知っていただくために、本企画展を開催しました。平成23年度から24年度にかけて新たに収蔵した資料を中心に、資料パネルや実物資料を展示。特設の立体写真スコープ体験スペースもご用意し、お楽しみいただきました。



立体写真スコープと
立体写真（明治期）

